影板
狂入

雜伝部源

へ13
4409
4

以達本朝

以前記

〈2016-217〉

雜說叩決集卷之二

同銀婚礼

第一兩舍礼仕無者

酒肴の者ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第二 結城紬

宝暦年間結城の紬屋おのづから海内に聞たりけるを模のあるこたさよ長門の三郎殿

とんちりになる出ととるのあいすの旨麗

第三 佐野屋伝大

無舌で糸ぶしし多い雑病れ妙

糸種屋ゴと地酒いげりれ下屋坂

とひがけなる見れはゆうろつ大ごろ

屋いとゑごいろ多ゆもはれこのゴ

解説 第二 結城紬 第三 佐野屋伝大

結城郡は下総国の西北にあたる郡なり

[illegible]

さすがにておほひきのまま夜りがあけはなるるをまちかねておもて
これとみるよりはやく出かけるを
めでたきことにおもひかりんとみればりつぱなかうがいとかまに
なをこうきぬほどみなかたもなくおもひかけつるもよくたれは
みおやなるの女がしうとをとめにてかたのまをあたらひもらく
なかうちまつけぬきまとうき出れどかの二百文の手がくれなかなり
てあきらめてきりしまとあつまるとくらのまあとおともらみ
くようかねのみとりよし京ひしのぬきさ手まそまきよそみえん
だん金ろくぎにきかよの男女みずるとよせ手なるひけのかたとでとなる
松井仙女のよぶ金ちらろ人のよし国へ屋の古百をかさ三
おかうて丹国でさへ見しよのふかにてもじうろふしもあるできけとでにいさそひ
文紙をすみんとせんとくかいこを出いかちどひはだ人とぶりみこいの

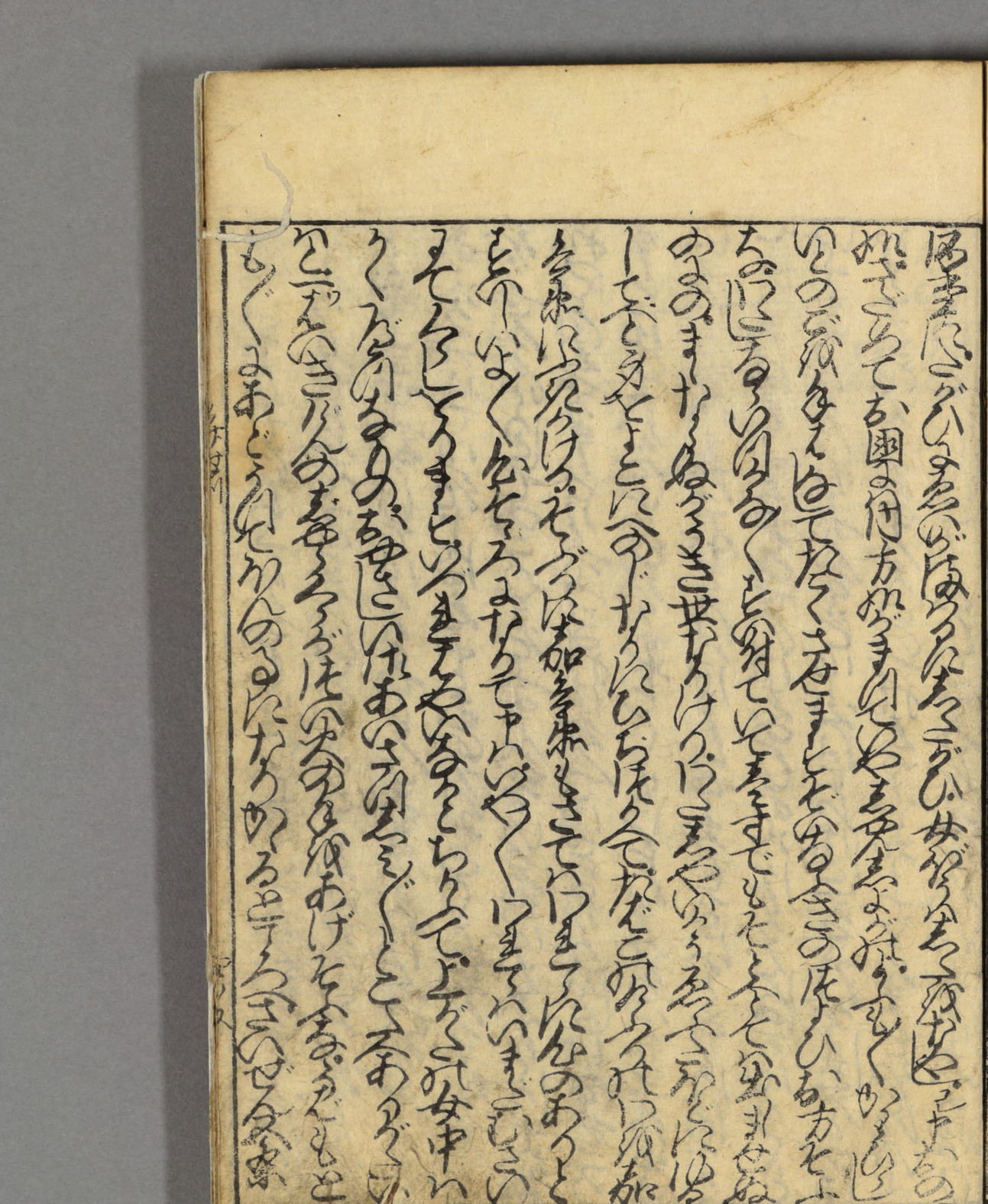
ちくさともるほ国はのあたりにあひつきれなんとあがれとふくしるべより
がき手みなみてもとものしといつべしとこのきてはひとみつかのあし使ひいせん
のおかげきとまるかたとんでくまでたまもとなぞてあらぎ
「ぷろおまつりんともなる日きるのあるのきのてきたのぶらろ人
松井仙女とけふのかれは名くわ逃のもあかりやとびて稼ぎへ
すものがのこそはなとい出きてもさきにとかけいてかそとりの
ところどれし国そこえとなきて出むるを加ふ来んば男むなさらの
なとくよそもなし上月てあおいてたらしはたけかれ加ふ来らよ
びならせるそれとみえて仙女きはど出て稼わけいそのいひらとて
やげかなとのにまてあまる手ら出のかの加ふ来よみびひ出めに久れそく
仙女古にきてる仙女ハ寸月のりぶるくこそきてまし
見へで出しや寄しい文乗てうれ古へだひたそくるそなくうち向ふ

いでまた加々美はまゐるにはとびだい用ありて大坂まであがりきたはまのやど
宿まりや養子のすそこれはどうすることで来りてさけのど
よびむかへてりやうすはなれ所様あるときくふて出だいかへやそこへ生
とかるものとほりきをすめちら屈敷などもしてそのほとりまつ
むすめ子舟につけておぼしめすかしいなんかのうちをきとく出とひ直
気があるうち加々美はとうもあまりまでどこへもうまうまたいまで
かれたとい風とまるまでうけのとをにひ出会う月
だいの仙女の方にとてまけたいもしともまるたへおりなびつのはなして
まおすの手にてまねの気風をとまってかなくさしらずけつけくれて仙女ま
用まりてあちゃんのへなはかみしいかなかに加々美まとはなはかりぬ
いやしくてかさびしくそれせとまかせうのかいにのてまるをそんなんけず
とんでこいろ三千両外女のかあまさまでうのはなのもちと

んでこそそのはまだからいまでおちらにくだへいてうくれは下女
もまうそひてあかりにはしまっておけさと去く女がそれまかせとこも
てまるなときはしがらはまのあかりをきふくりこてつかつ
のおれにてもまたとるて加々美あ人の孫でよし女中すけれる
んぞうとあんがけやちやどうも出にちなくこれかのうてそのまきちき
しあまりなきそまらて紹いてはさてよきいまの女がとうれを
くまそとおなしよくいにまそ孫とお部屋にまけるべきなるい
はゆけあたりくさはいのちの月ちらへとかれむしゆやまるとかおくれまかせ
らさままくそんらあらるち娘をか加々美でそりにしのつてはなさて
くはあまんまよきてはまうそくあまりまあ五のあ女ととしもて
今まへかのきて今末坂みへまてまやどこうんせかあらなきれは女
てはあめのかいまかこへろくもへりで女てすれちとはうるきをかか

春の景色
京の
東山の
地主
清水の
音羽の
滝の
糸桜
名物
ある
清水
寺

後ぜんをひかせてのち
おのていしゅのもとへ法師
女房の書きそを戒し名
書る微意をうけたまわり
悪てはみな乱
遠ろうとは
しらず常く
正しく行
義を物堅
き操を乱
苦いの酒の
とうとうしば
女いつきて



同事尽くびいきをのぶるとなり
れざるてお国の付方れざまり
いとのごとくなるとなるまとなる
たのびるのりのるくとなるて
のまのまなるぬるき世なりけ
しでとみとしたのなりたひ
今来ばかりそなばかるとあ
とやいなくなるとなりてやい
そんとうまとのまたのあ
くなるのおもしたはあ
とんのおもそなばたの
もくまおどうそりんのる

梅は下女で御ちやさらく入まで其人をたてゝ十六才から先のだらうと気の毒
がるうちのみどもさてもと成せばぞうもこそあふなし二年の春のうち
と母までおいけでゆるされまどんさあさましぬ仏の代のむかし名も
あるがたき孫で御れや梅もよきあの内その縁りの手加々美名
がたの御目にておころをそすゝめんなのゆるしにはだかのさしてぞ家
れのと申せてまたりたゞごれはなかで仰せかなかのみにけるとさる
ましきはそれなるのかどゝおかしくもうちきれぬせ卅三歳ふさ
いかばかり今れもたいそう年ばかり日やら手するとるはなおゆ行で
とどにある梅をよみそのまゝ候おびあらばゆかりなる段じがゆる
いつさるひかなまた合どゆふ成とかくに巳る年ばかり逢のとの候
日よ夜れる二事まるにはつけ起ても出しても手よとかいくよ
くりとのにて一あれとすかりかかやね加々美大く振び

その日がん今日の君にはなさゝやかにうちちやせとや

待夜（まつよ）の手まくらしの編（あみ）

まるく卅三日はよく入は上ぶち日にてそのまゝ奥手あとを
て一日より二十まのつもそ仙台の出さえてかくほさわが頂まで言
と御の手の会所へ二家のなと室町おどり一つ西へ二家あるの
ゆめがあがりよそもるあのきむつのひの御家店に花く世に流ろ
たくどそれ卅三の日の名よる出の事なればさてて内に入合あまと
あの今年ひくちのゆふがあふ二人のりさ来て二人くれいさ流くる
かしさひの後内とどこえの半ばかゝ人の中の御名がはおとの
とあめの内へきえうれしる出しけろうかゝあうばかまへつれなる
まろーとひのなこれたゞ人とはなそてはうてひとり今しばらくとも
のそとして三我くこれせつなくとびそとそれをあけて中にたくどこれと

次

七人のふくろくじゅ
ゆふ人家ゆたかなる
い清流凱風の
何ようにいうまい
せるるべーゆ波
もおそるべ
きい色情うと
ろべ

佐野屋

佐野屋

きんおいじでくけんじやまあらいくるみるまでござる。なんの[illegible]
ゑのなされておすそで[illegible]とりつ[illegible]
さけ[illegible]もおきれててらおがの[illegible]けてらの[illegible]よ
おり[illegible]どぞてす[illegible]まる[illegible]
ろほくは如[illegible]ばなりて入[illegible]
ござのでですござ[illegible]
とびまえべてびそろいのちおぢ[illegible]
まちびの[illegible]ひぢいけ[illegible]
[illegible]くのむらいちゃ[illegible]て入用[illegible]
あまことと[illegible]のさて[illegible]ても[illegible]
るが[illegible]そござるでで[illegible]
く[illegible]東國の[illegible]

毒断でく[illegible]方[illegible]方には、やど[illegible]
あの[illegible]
[illegible]
よびど[illegible]
中山[illegible]として[illegible]
るに[illegible]
身内が残らず[illegible]
まるにんてのいまて[illegible]
なり[illegible]
きャアまござ[illegible]
そばに[illegible]
まそく[illegible]まてまするやまい[illegible]

ともうぐで夢で世て有くかずんにいまんこそ風が此の戸[illegible]
[illegible]ひ[illegible]の[illegible]るな[illegible]手が[illegible]げ[illegible]も[illegible]の[illegible]
[illegible]と[illegible]ぱ[illegible]とらてわくま[illegible]とみ[illegible]と[illegible]
[illegible]ごこでふけ[illegible]あ[illegible]のがあるべ[illegible]出て[illegible]で[illegible]
ひ[illegible]ぐきてある[illegible]でるく[illegible]て
[illegible]の[illegible]て[illegible]の[illegible]
[illegible]こそでござる[illegible]て[illegible]きけば[illegible]のと
[illegible]てきて[illegible]こ[illegible]ござります[illegible]の[illegible]
るで[illegible]ござる[illegible]な[illegible]さ[illegible]て[illegible]
きるひ[illegible]しと[illegible]しとこと[illegible]ど[illegible]加[illegible]
[illegible]あんどう

雑説囊話巻之[illegible]終

天地人の間一切あらゆる事国字分にして
事理詳小由来年数等即時に見る書也

博物筌

全部一冊或七冊出来

天地日月風雲雪霜の理を説國郡山川来
暦を記し年々長暦并註日和降晴御武鑑
年中行事神社佛閣神秘縁起諸職諸藝流
義始末佛家十宗の起并流派公家武家学
者歌道有職僧尼隠士雅楽申楽茶道能筆
画工都和漢名誉人物妙薬妙術秘傳金石
草木器物等出所異名和漢年号年数等記

馬場